



第154号
 発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会 会長 聰長 匡社
 市村 編集委員 滝澤 祥
 編集人 会報編集委員 須坂 新聞
 印刷所 須坂新聞社

本年度教育会
 のまとめ

教育会の活動をふりかえって

教育会副会長 黒岩 恒文

平成四年度上高井教育会も関係各位のご努力によって年度当初の活動計画や諸行事が予定通り実施され、大きな成果を上げることができました。ここに心より感謝申し上げます。

本年度は、小学校では、新指導要領の完全実施の年で、生活科に表象される新しい学力観に立って出発いたしました。また、九月からは学制発足以来の教育改革であるといわれる学校週五日制が、その第一歩を踏み出しました。このような新しい出発にふさわしく研究委員会において、新しく中心講師に、筑波大学助教授、谷川彰英先生(本県出身)をお迎えし、全体研究テーマを「子どもにとって、わかり、魅力ある授業のあり方」とし、基礎的・基本的内容の定着と伸長を目指し、委員会も十七から十五に減らし、新しい出発をいたしたわけで

に取り組まれた先生はもとより、実践授業を通じた委員会の研究により、教師として、己れの力量向上を印した一年でもありました。

教育の活動のもう一つの重要な柱である同好会も、前年度同様、十四の同好会を結成し、三百名近い会員が加入し、それぞれ研究、研鑽を重ねてきました。毎年、継続し中央から講師を招いたり、夏休みを利用しての夏季講座、臨地・実技・読み合わせ等、各同好会の伝統を受け継いだり、先輩や地域の同好の士への呼びかけ等、運営に工夫をこらした活動が見られました。そして、その成果を会誌・会報を通じて、また、研究発表会・展示会等を通じて発表されてきましたことは、同好会の一層の発展のために大変良いことでありました。

また、この他の研究委員会でも、それぞれ助言者をお願ひし、教育研究を一層深めることができました。研究授業

急激に変化する社会に対応できる教育のあり方についての教師としての視野を広め、深めるための講演会は、春には、総会の折、東京学芸大学名誉教授・信州短期大学教授市川健夫先生の「上高井の風土と文化」と題した講演は、先生の郷土への思いが感じられ、改めて郷土について見直すきっかけとなりました。

秋には、山梨学院大学教授宮坂広作先生の「新時代の信州教育―伝統の継承と創造を求めて―」と題して、信州教育の持っている良さとそれを見直すこの大切さを強調され、考えさせられました。

以上、教育会の活動をふりかえってきたわけであり、委員の皆さんも教育会の一員として、自ら活動したことをふりかえり、教師として会員としてのあり方を問い直し、教育会の発展につなげてほしいと思います。

(小山小)

教育会だより

- 12 26 上高井教育会報第153号発行―第14回郡研究発表会・第13回郡女教師研究大会特集―
- 1 12 第2回研究委員会世話係委員長会
- 2 21 第2回同好会世話係委員長会
- 2 23 第45回県女教師研究大会 於小県郡東部町文化会館及び東部中学校 本会参加23名
- 2 8 第8回常任委員会
- 2 15 第9回代議員会
- 2 27 上高井教育会報第154号発行
- 3 20 第9回常任委員会
- 3 26 第10回代議員会・委嘱委員会報告
- 3 15 上高井教育会誌第49号発刊

須高の自然

⑬

宇原川上流の巨大ブナ 堀米 富平



樹高約一八m、幹圍三七二cm、拡張東西三一m、南北三〇m、須高最大唯一巨木ブナ、地上三mからサメ肌美しい相寄る二本の幹に立ち、円型状に枝を繁らせ、風雪に耐えて頂部まで健在である。

周囲はけわしい爆裂火口の断崖、中高木のブナがダケカンバやナナカマドなどの夏緑広葉樹と共に広く分布している。往時、奥地の炭焼きで斧が入っている林相であるがこのブナが巨木として残っていることは珍しい、昭和三十年筆者調査を見たが、その後見失い伐採されたものと思つて

いたが宇原川流域現存自然確定調査で再発見、測定できた。県内南から北上した太平洋型ブナ(木曾、伊那、佐久)に対し、日本海型ブナが鍋倉苗場、志賀に分布しており、須高に入って筆者調査では山田牧場、米子川上流、宇原川上流まで分布が伸びている。本巨木ブナは日本海型ブナ分布南限のシンボルと見てよい。秋田県に分布、長野県内どこにもないオオバブナを菅平に少数見ることが遠隔飛び込んでの分布、不思議である。

(高山小)

本年度の実践をふりかえって

本年度も残り少なくなりました。各校では一年間の教育実践を振り返り、反省やまとめの時期を迎えておられることでしょう。ここに、4名の先生方の貴重な教育実践をお寄せいただきました。今後の教育活動に生かしたいものです。

国語における

話し合いのあり方

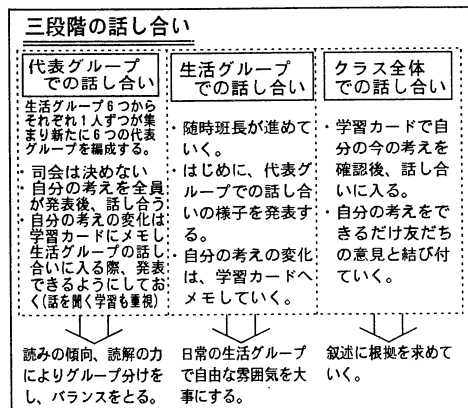
高山 健

私は五年生を担任している。なかなか意見をいって欲れない子どもにも原因をおしつけつつも、特に御座なりに流れていく国語の授業を振り返ってみると、原因は、どう考えても具体的な手だてを講じられない自分自身にある。

さてどうしたものかと考えてみても、子どもの興味に走れば、読みが深まらず、理屈に走れば、子どもの心は離れていく。考えは持っていない。クラスの前では発表できない、話し合いが深まらない等々、八方塞がりといったところである。

誰もが話し合いに参加でき、多くの意見が活かされる場を設定するにはいかにすればよいか、それが私の常々考えていたことであった。

そんな時、ある問題についてグループで話し合わせただけ、普段はあまり話さない子が、意外に積極的に話し合いに参加している姿を見て、グループ学習をうまく構造化できれば誰もが活躍する場を設定できるかもしれないと考えた。



多くの子どもが自由に意見をいうことができたが、六つの班の中には、二度とも同じような話し合いの繰り返しになる班もできてしまった。

どうしても考えなければならぬのが、グループを構成するメンバーをいかに組み合わせるという問題である。

特別活動の実践を振り返って

手塚 直樹

私は、昨年の十一月二十五日、二年生の私の学級で郡の特活研究の授業を行った。本年度の郡の研究テーマは「望ましい集団活動を通して自己を高め自己実現していく」指導はどうあったら良いかであり、より実践力を高める指導という視点で研究を進めた。新任地で初めて受け持った学級で二年生も二学期を向かえるこの時期に、前記のようなテーマで研究ができたことは今になって考えると、私にとっても、学級にとっても大変役立った。よく、先輩の先

うのがあり、まとめある学級を作るためには、全員が一つの目標に向かってそれぞれの役割を自覚しつつ意欲的に活動していくことが重要になってきます。しかし、生徒に意欲的な活動をさせるためには、単に活動を与えるだけではなく、実際の活動を生徒自身にしっかり見つけさせ、良かったことを正しく評価させることにより、次の活動への自信を持たせ意欲を喚起させることが重要になってくる。

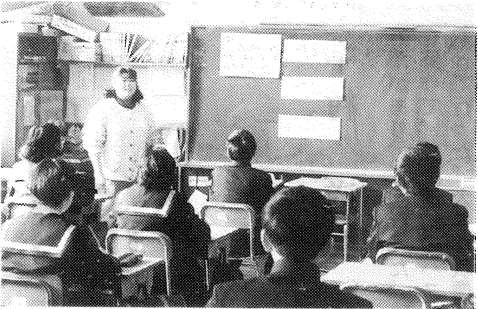
わったことでした。特に話し合い活動では、授業後も今までのないお互いが本音を出し合う場面が現れたことによつて、学級会が問題を解決する手段として位置付いたこと、どんなに意見を言い合っても学級としてまとまっていけるのだということ、相手の立場に立って発言できること、話し合いの中で自分を見返していこうとする姿勢が見られた

「家庭生活」領域の実践から

小山 章子

本年度は各校の研究を基に研究委員会を組織するということで、本校の研究テーマを受けて「生徒一人ひとりが喜びをもって学習に取り組む指導はどうあったらよいか」つけたい力の洗い出しと、素材の教材化」というテーマを設定した。授業場面は新領域「家庭生活」の中より、経済単元を設定した。

本校の生徒は地域性から物の購入は市街地まで出掛けることが多いが、欲しい物は案外簡単に手に入れている。そのためか金銭の使い方等に関して切実感が少なく、消費者としての自覚や、家族の一員としての役割や生活状況への自覚が薄い。そのような生徒達に、モデル家族のシミュレーションやロールプレイング、実際に自分の欲しい物の購入方法を教えたりして疑似体験



させることを通して、家族生活のあり方や問題点に気づき、家族の一員としての自己理解をして、これからの自分の生活を考えていけるようになってほしいと願った。

実際の授業場面は、「A君が欲しいCDミニコンポをどうやって買ったらいいか」と

こと、そして何よりも生徒自身、何かをやるうと言う意識になったことでした。

今後、いかに学級で決定したことを、学級運営委員会などの活用をはかりながら実行していくか、また、せっかく芽生えた生徒の意識をさらに伸ばせるかが課題だと考え日々努力していきたいと思っています。(常盤中)

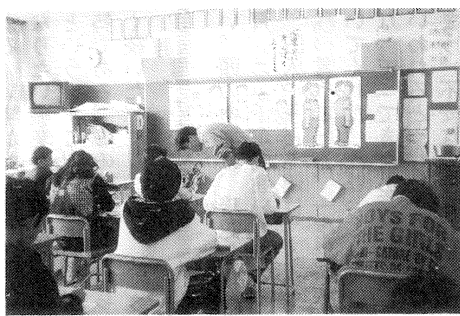
いう学習問題を設定した。A君についての情報は①CDミニコン(十万円位)が欲しい②手元のお金は五万円。③一月の小遣いは二千円の三つであり、購入時の支払い方法も現金払い(10%割引)分割払い(手数料13%)ボーナス払い(手数料なし)の三つを設けた。生徒達は資料として配った広告(自作)を見ながら、どの方法で購入するか。その理由は何かを考え発表した。それをもとに教師側でそれぞれの方法のメリット・デメリットを整理し、生徒は更に自分の欲しい物をどの方法で購入するか考えた。

ところが現実的には生徒が知っている(経験したことがある)方法は現金払いであり、分割払いやボーナス払いの方法自体の理解が難しかった。また、当然のことながら中学生のボーナスはないのでピンと来ない生徒が多かった。

研究会では今すぐに欲しいのか、お金をためるならどうやってためるのか、ボーナス払いならその見込みはどうするかなどより具体的な条件設定をしてやれば話し合いが深まるという意見が出された。更に中島指導主事からは、問題解決能力を育てる学習(価値判断の基準をどうとらえるか)が大切であるというご指導をいただいた。今さらながら生徒達の意欲を引き出し、生活に結びついた教材設定の大切さと難しさを感じた研究

保健学習の実践をふりかえって

上島 明裕



と来ない生徒が多かった。

研究会では今すぐに欲しいのか、お金をためるならどうやってためるのか、ボーナス払いならその見込みはどうするかなどより具体的な条件設定をしてやれば話し合いが深まるという意見が出された。更に中島指導主事からは、問題解決能力を育てる学習(価値判断の基準をどうとらえるか)が大切であるというご指導をいただいた。今さらながら生徒達の意欲を引き出し、生活に結びついた教材設定の大切さと難しさを感じた研究

と来ない生徒が多かった。

研究会では今すぐに欲しいのか、お金をためるならどうやってためるのか、ボーナス払いならその見込みはどうするかなどより具体的な条件設定をしてやれば話し合いが深まるという意見が出された。更に中島指導主事からは、問題解決能力を育てる学習(価値判断の基準をどうとらえるか)が大切であるというご指導をいただいた。今さらながら生徒達の意欲を引き出し、生活に結びついた教材設定の大切さと難しさを感じた研究

高学年になり、テレビや雑誌などから多くの情報を取り入れていくこともあって、何かと男女のことが自分の身体のことについて関心が高まってきた子供たち。「〇〇は△△のこと好きなんじゃない?」「〇〇のあそこみたい」などといった言動もよく聞かれる。しかし、その一方で性に関することに対しては抵抗感や嫌悪感も強く、男女間の協力関係や支え合いとなると反発してしまったりする。こうした子供たちに、自分の身体に対する正しい認識や異性に対する思いやりの気持ちを高めたいと考え、今回の保健学習の実践を行いました。

と来ない生徒が多かった。

研究会では今すぐに欲しいのか、お金をためるならどうやってためるのか、ボーナス払いならその見込みはどうするかなどより具体的な条件設定をしてやれば話し合いが深まるという意見が出された。更に中島指導主事からは、問題解決能力を育てる学習(価値判断の基準をどうとらえるか)が大切であるというご指導をいただいた。今さらながら生徒達の意欲を引き出し、生活に結びついた教材設定の大切さと難しさを感じた研究

と来ない生徒が多かった。

研究会では今すぐに欲しいのか、お金をためるならどうやってためるのか、ボーナス払いならその見込みはどうするかなどより具体的な条件設定をしてやれば話し合いが深まるという意見が出された。更に中島指導主事からは、問題解決能力を育てる学習(価値判断の基準をどうとらえるか)が大切であるというご指導をいただいた。今さらながら生徒達の意欲を引き出し、生活に結びついた教材設定の大切さと難しさを感じた研究

と来ない生徒が多かった。

研究会では今すぐに欲しいのか、お金をためるならどうやってためるのか、ボーナス払いならその見込みはどうするかなどより具体的な条件設定をしてやれば話し合いが深まるという意見が出された。更に中島指導主事からは、問題解決能力を育てる学習(価値判断の基準をどうとらえるか)が大切であるというご指導をいただいた。今さらながら生徒達の意欲を引き出し、生活に結びついた教材設定の大切さと難しさを感じた研究

と来ない生徒が多かった。

研究会では今すぐに欲しいのか、お金をためるならどうやってためるのか、ボーナス払いならその見込みはどうするかなどより具体的な条件設定をしてやれば話し合いが深まるという意見が出された。更に中島指導主事からは、問題解決能力を育てる学習(価値判断の基準をどうとらえるか)が大切であるというご指導をいただいた。今さらながら生徒達の意欲を引き出し、生活に結びついた教材設定の大切さと難しさを感じた研究

と来ない生徒が多かった。

研究会では今すぐに欲しいのか、お金をためるならどうやってためるのか、ボーナス払いならその見込みはどうするかなどより具体的な条件設定をしてやれば話し合いが深まるという意見が出された。更に中島指導主事からは、問題解決能力を育てる学習(価値判断の基準をどうとらえるか)が大切であるというご指導をいただいた。今さらながら生徒達の意欲を引き出し、生活に結びついた教材設定の大切さと難しさを感じた研究

ところが、その後の「受精をして生命が誕生する」という過程では、どのようにして扱ったらよいか正直言って困ってしまいました。そこで、生命が誕生する神秘さ、素晴らしいことにぜひ気づかせたいということから、お家の方に、子供たちが産まれた時のいきさつをメッセージという形で書いていただきました。本時では、受精から胎児の成長・出産の過程をVTRで見せ、その後でお家の方からの手紙を読むことにしました。手紙の内容は、子供たちが産まれた時の感動や喜びがひしひしと伝わってくるものでした。子供たちも、自分が本当に期待されて産まれてきた大切な存在であること、両親がこれほどまでに自分を愛してくれているのだということを実感していたようです。

今回の実践では、いくつかの課題も残りました。やはり、子供一人ひとりの個人差は大きく、まだ自分の問題となっていない子供たちには、今後どのように指導をしていったらよいか。これから知識・理解面だけでなく、子供たちの心情をさらに育てながら、保健学習を進めていく必要を感じました。つい後回しになってしまふ保健の時間。子供たちにとって自分の身体や友達関係とも関わることを学ぶ、大切な時間として位置づけていきたいと考えています。(豊丘小)

火ばら 談義



博覧会めぐり

中村 道夫

今年の夏、松本で信州博覧会が開かれるという。初めは「博覧会?何をするのか。」などと思っていたが、今は少し興味が出てきた。

考えてみれば、博覧会にはずいぶんたくさん行った。

最初の博覧会は、小さい頃に行った長野での博覧会である。大きな動物がいたような気がする。そして、象のプローチの金色の輝きを、今も思い出す。

次は「一九七〇年のこんにち」は」と歌詞になった大阪での万国博覧会である。初めて新幹線に乗って行った。ずいぶん人が大勢いて、入場するのに時間がかったことを思い出す。買って来たコーヒートの香りがとてもよかった。沖縄での海洋博覧会では、海の青さ、美しさを今も覚えている。「ひめゆりの塔」、民宿での話、そして、パイナップルのおいしさ、水族館での大きな魚、「ていんざぐぬ花」の歌など思い出す。昭和六十年には、筑波の科

った。いつかまた見たい。

博覧会は、その時代を映す鏡のように思う。そして、限られた時間の中で人々や動物物が精一杯生きている姿が、訪れた人々に人間や世界のすばらしさと時の無情さを教えてくれている。思い出となるのであろう。今度の信州博覧会も人々の深い思い出を残すものであってほしい。

学校生活も博覧会のようなものではないかなあと思う。限られた時間の中で精一杯生き、生きる喜び・悲しみを味わい合うのだから。でも、私などは、時間に限りのあることを忘れ、目の前のことにとらわれているばかりだ。時々、博覧会などに行き、気持ちを新たにしたい。(栗ガ丘小)

一月十九日スキー教室

伊藤 千鶴

「えっ、私がですか。」
「三年からは、伊藤さんをお願いしよう。」

スキー教室の引率が決まってしまった。この私に。この時から一月十九日、スキー教室」という言葉が頭からはなれなくなっていました。

私のスキー歴というのは、何ともお粗末。とても人様に教えるような技術も知識もない。一初めてスキーをしたのは、小学校一年の時。ちゃんと、くつもスキーの板も買ってもらった。それならスキー

「なりたい職業は？」

細江 洋司

子ども達との面談で「将来、何をしたい?」と聞くことが度々ある。答えは、まず返ってこない。正直、答えをさほど期待しているわけではない。私自身、中学時代に同じような質問をされ、困った覚えがあるからだ。

一体に、中学生というものは、自分のなりたい職業をしっかりと持っているものなのだろうか。早めに人生の目標を決定し、それに合った進路を選択し、必要な力をつけていくことが望ましいことは言うまでもないだろう。しかし、実際問題、十数年間の人生の見聞で人生の目標が決定できるものだろうか。少なくとも、私には無理だった。

私の「なりたい職業」の遍く続いた。

頭の中では、暗記した練習メニューが渦巻いている。五人の子ども達は、こんな私の言うことも、一生懸命聞いてくれた。汗びっしょりになって「できたあ。」なんていわれるとうれしくなってしまう。不安な気持ちも和らいだ。

たかがスキー教室。されどスキー教室。この日は子ども達のけなげな姿と笑顔に救われた一日だった。(豊洲小)

大学生になり、いい加減に焦りはじめた私の身の上、ついに、と思わせるような事件が起こった。先輩から「イヌワシの生態調査をするから手伝わないか。」と持ち掛けられたのである。幼少時から動物観察の類いが大好きだった私は、ここを先途とばかりこの話に飛びついた。その年の冬、十数回にわたって山に入り、イヌワシを追った。噂に違わぬ勇姿だった。しかしここでも夢中になれない自分を、私は発見した。私は、再び暗黒時代に逆戻りした。

いつの間にか私は、教員になっていった。ホームズも、漁師もイヌワシも、関係なかった。中学生にどんな進路指導をすべきなのか迷う毎日である。(常盤中)

編集後記

本年度最終号の会報154号を「教育活動の総括」と「本年度の実践をふりかえって」のテーマで編集し、お届けすることができました。

本年度の実践を振り返り、まとめたものを大切にして、新たな展望をもって新年度を迎えたいものです。

学年末でお忙しいところ、早く原稿をお寄せいただいた先生方、本当にありがとうございます。

風邪が流行っております。お体に気をつけてお過ごし下さい。(勝山・井口)